

## 関西大学経済学部創設100周年を迎えて

関西大学経済学部は、本年、創立100周年を迎えた。その記念行事の一環として関西大学『経済論集』経済学部創設100周年記念特輯の刊行が企画された。

関西大学の前身である関西法律学校が商都大阪に誕生したのは、1886（明治19）年であった。この頃からの数年は、日本経済史のうえでは企業勃興期と言われ、産業革命が始まり日本資本主義が確立に向かう時期にあたっている。

これと前後して、1882（明治15）年に日本銀行が設立され、1897（明治30）年に貨幣法が制定された。1902（明治35）年には、日本銀行が国民経済の動きを示す指標の一つとして卸売物価指数を発表した。商工業の発展が著しかった大阪においては、1903（明治36）年に天王寺公園で第5回国勧業博覧会が開催された。

そういうなかで、1904（明治37）年、当時、大阪における法律分野の唯一の私立専門学校であり、高等教育機関であった関西法律学校に経済学科が新設された。これが関西大学経済学部の始まりである。

『関西大学百年史』によれば、関西法律学校が創立されたときの最初の講義は「経済学」であった。経済学科が設置された当時は、経済学通論、経済学原論、貨幣論、経済政策、金融論、外国貿易論、銀行為替論、財政学などが講じられたようである。

今では教員数や開設科目数も往時と比較にならないほど拡充されるにいたっている。研究面でいえば、1928（昭和3）年に関西大学経済学会が創設された。第二次大戦後、1948（昭和23年）には新制大学に移行し、経、商、法、文の4学部が新たにスタートした。その2年後の1950（昭和25）年には、経済学の学術専門誌として『経済論集』が創刊された。同じ年に、新制大学院制度が発足すると同時に、経済学研究科の修士課程が、また1953（昭和28）年に博士課程が設置され、研究体制の面でも格段の発展を遂げてきた。

関西大学創立50周年が祝われた1936（昭和11）年には全学的に記念論集が刊行されたと聞く。1955（昭和30）年には、他学部の学内学会誌とともに『経済論集』の関西大学創立70周年記念特輯が刊行された。以降10年おきに、創立80周年、90周年、100周年の記念特輯が刊行されている。その間、1978（昭和53）年には『関西大学経済学会創設50周年記念論集』も刊行されている。

そういう歴史の積み重ねのなかで迎えた経済学部創設100周年である。それを記念する本特輯がここに刊行されることを、関係者の一人として心より喜ぶたい。

2004年10月13日

関西大学経済学部長

森岡孝二